

リハ専門相談 事例紹介シリーズ⑭

加齢による身体機能低下に伴う入浴環境への提案

加齢に伴う身体機能低下は障がいの有無に関わらず誰にでもみられますが、健常者よりも障がいのある方のほうが、影響が大きいように感じます。今回は、受傷から長い経過の中で、加齢に伴う身体機能の低下により動作が困難になったケースへの対応を紹介します。

症例は、受傷後数十年が経過した脊髄損傷のケースです。在宅生活を過ごす中で、徐々に浴室の洗い場への移乗に介助が必要となり、その介助も困難となってきたため、ケアマネジャーから相談があり移乗方法の検討で、PT・OT・SWが自宅訪問をしました。

移乗方法は、バスマットを敷いたすのこに対し、車椅子を正面づけします。自分で両足を上げてプッシュアップしますが、車椅子とすのこの間に隙間があるため、家族の介助を併用していました。しかし、プッシュアップ機能が低下し、介助でも移乗することが困難となっていました。そのため、車椅子とバスマットの間の隙間を埋める方法を検討しました。福祉用具の使用については、出し入れの手間や設置の簡便さを考慮し、トランスボードの使用を提案しました。実際に確認した結果、安定して可能でしたが、ボード1枚では本人の不安もあったため2枚重ねて使用することを提案した。また、移乗時に家族がサポートしやすいよう、本人の腰部に装着するベルトの購入も提案しました。

在宅での日常の動作を検討する際には、今まで行ってきた方法を踏まえ、本人や介助するご家族になるべく負担のかからない方法を提案する必要があります。そのためには、身体機能、環境、費用等を総合的に判断していくことが重要になると考えます。

(小泉千秋)



ボードの設置場所



ボードを装着した状況